

元氣



(レポーター/ヒメジャガ)



東京応援団 豊のくにけいこく



現在、
総合型地域
目指し設立
いだコミニ
会長として
に活動し
集大成

ナ
建
(
く

県内最高齢ランナー

久本 成美さん



(レポーター/うめといと)



「明るく、楽しく、前向きに」 再び聖火ランナーとして

みやこ町

東京2020オリンピックの聖火ランナーに選ばれたみやこ町の姫島和生さん(72)。姫島さんの出身は、大分県野津町(現臼杵市)で、昭和39年(1964)の東京オリンピック時(当時高校3年生)にも選ばれており、人生2度目の聖火ランナーとなります。現在は、みやこ町の豊津寺子屋で小学生に歌やカルタなどを教えており子どもたちの教育にも関わっています。前回の聖火リレーから「もう一度、走りたい」と夢や希望を強く持ち続け、今回応募をしました。

5月13日の聖火リレーでは多くの人を元気づけ、大会を盛り上げたいそうです。「これからも、夢や希望を持ち続け3度目の聖火ランナーを目指したい」と話してくれました。(レポーター/パル)

人生2度目の聖火ランナー
姫島和生さん



みんなで応援 五輪YEAR!
京築オリンピック話

KEICHIKU 2020

特集

世界の頂点を目指せ! ヤワラちゃん | 行橋市

了徳寺大学職員柔道部
能智亜衣美さん



全日本選抜柔道体重別選手権63キロ級平成28年(2016)・平成30年(2018)の覇者で、令和元年(2019)全日本実業団選手権では準優勝の実力を持つ一線級のアスリートの能智選手は現在24歳。小学校3年生から柔道を始め、北九州市立企救中学→宮崎日大高校→筑波大学と柔道強豪校出身の経歴を持ちます。「休みの日には今川で鮎の引っ掛け釣りを楽しんだ」と、能智選手のお父様が楽しそうに話してくれました。馬ヶ岳の麓、行橋市津積の出身。山と川、海の自然とご家族の愛情が基礎をつくり、現在も第一線で活躍中の彼女は了徳寺大学職員柔道部に在籍し、世界の頂を目指しがんばっています。(レポーター/若草物語)

青豊高校 日本一のPOMダンス | 豊前市

青豊高校ダンス部
POMチーム



副キャプテンの水本さんは、昨年の全国大会について「学年関係なく自分の意見が言え、ぶつかり合っても最後にはひとつになって最高の演技ができました」と笑顔。そんな彼女らに「今後の目標は?」と聞くと、キャプテンの倉迫さんは「全国大会4連覇!」と、力強く語ってくれました。ダンスも一流で、さらに気遣いやあいさつが素敵な青豊高校ダンス部の皆さん。今後の活躍が楽しみです。(レポーター/みつ)

八幡古表神社
神相撲



時間、夜に一時間半の祭事の一番の見どころを熊谷宮司に聞くと「見どころは…全てです。消化試合はありません」とのコメント。この準人の乱を鎮めた長官は、令和の宴を主催した大伴旅人! そんな令和ゆかりの「神相撲」を、ご覧になってみませんか。(レポーター/ギア)

今年が本場所! | 吉富町

オリンピック・イヤーと同じく四年に一度開催される伝統の祭り「細男舞・神相撲」が、今年の8月7日(金)に開催されます。起源は養老3年(719)、大隅・日向の準人族の反乱を鎮める官軍・宇佐の神軍の戦いです。士気の衰えた官軍を鼓舞するために息長大神宮(八幡古表神社の旧称)の神官が御神像を造り、戦場で伎楽を奏でて勝利に導きました。その後、宇佐神宮は準人の霊を弔うため放生会の祭りを執り行い、八幡古表神社でも御神像を船に乗せて宇佐の和間浜で奉納していましたが、現在は八幡古表神社独自で放生会を執り行っています。祭りで奉納される神相撲では東西二組の神様たちが登場し、個性のある取り組みが繰り広げられます。最大の見せ場は黒くて小さな住吉大神の6連戦です。昼に一

ふるさとミュージアム

修験・神楽・エコロジー

豊の国 京築かるた紀行

スイートコーン(築上町)

ゆであがり「できたて最高!」築上コーン

京築のスイートコーンは、レタスの後作として昭和57年(1982)頃から栽培が始まりました。令和2年(2020)3月現在、京築で50農家、築上町で15農家が栽培しており、京築管内で一番生産量が多い地域が築上町です。今回、J・A福岡京築スイートコーン部の前会長である「ファーム赤松」の赤松正吉さんにお話を伺いました。

「ファーム赤松」は、スイートコーン圃場4haで、6月〜9月に出荷できるように栽培しているそうです。今年は2月から「恵味(めぐみ)」という品種の種まきを始め、5月26日が初出荷となりました。最高のスイートコーンを収穫するには、たい肥等を投入した土作りが大切です。有機肥料も使用し、スイートコーンが大きくなるように努力しておられます。スイートコーンは夜間に糖



応援団ひろば 京築ブロック「新年カルタ大会」を開催しました!

2月16日(日)、行橋市研修センターで福岡県子ども育成連合会京築ブロック「新年カルタ大会」が開催されました。今回で36回目となる「新年カルタ大会」。京築地域では平成27年度から「京築かるた」を活用して、大会を実施しています。「京築かるた」は京築地域の歴史や自然、文化などを読み札にしており、子どもたちはかるた取りを楽しみながらふるさとについて学んでいます。会場では子どもたちによる白熱した試合が繰り広げられました。35チーム(192人)が参加した大会の結果は次のとおりです。(レポーター/もりもり)

入賞結果

低学年	1位	喜連島A(吉富町)
	2位	パワフル上毛(上毛町)
	3位	喜連島B(吉富町)
高学年	1位	上築城A(築上町)
	2位	宇島スピードスター(豊前市)
	3位	喜連島A(吉富町)

●問い合わせ 京築連帯アムニティ都市圏推進会議事務局
(福岡県企画・地域振興部広域地域振興課)

☎ 092-643-3178



苅田町期待の星! パリで翔べ! | 苅田町

苅田町出身の18歳、出口晴翔さんは、日本陸上界で将来を嘱望されているアスリートです。競技種目は男子400mハードル。地元のスポーツクラブ与原RCで陸上を始め、苅田中学校を卒業後、スポーツの名門校・東福岡高校に進学。2・3年生時にインターハイを2連覇し、平成30年(2018)のブエノスアイレス・ユース五輪では、日本陸上勢唯一の金メダルを獲得するなど、その活躍ぶりはまさにワールドクラスです。東京、パリ、ロサンゼルスと続くこれからのオリンピックで、出口さんの活躍に期待がかかります。(レポーター/ニンニン)



東福岡高校
出口晴翔さん

50歳、移住、転職 聖火ランナー当選! 家族の応援を受けて再び走り出す!

上毛町

多忙なサラリーマン生活で家族や地域とふれあう時間もない! 残りの人生、これでいいのかという思いが膨らみ、新しい暮らし方や幸せの形を見つけに上毛町に地域おこし協力隊員として移住してきた桑原さん。移住定住促進や道の駅しんよしとみの業務支援を行ってきました。子どもを抱えての再スタートという不安な気持ちに負けず、がんばる姿を子どもたちに見せたいとの思いから聖火ランナーに応募したそうです。小学1年生の丸君は、唐原子供神楽で神楽の練習に励み、桑原さん夫妻は、休日を利用して上毛町の野菜などを北九州や大分の皆さんに届ける移動販売を始めながら、野菜の栽培やカフェ開業に向けて準備中です。「聖火リレーで、これまで支えて下さった皆さんへ感謝と家族の未来を繋いでいくという気持ちを込めて走りたい」と、熱く語ってくれました。(聖火トーチは丸君作) (レポーター/リトルミイ)

地域おこし協力隊OB
桑原政行さん



京築民話のふるさとし版

海と人を結ぶ絆

こうのしま

神ノ島と白蛇伝説

苅田町といえは、セメント、金属、電力、自動車工場が臨海部に立ち並び大型船が行き交う港湾の町。

しかし二百年ほど前は、現在の国道10号あたりまで波が打ち寄せる海辺の美しい村でした。この海の真ん中に浮かぶ小さな島の名は、「神ノ島」。東西750メートル、南北100メートルで豊玉姫が乗った船が島となったという言い伝えのように、島をおおう照葉樹の森と切り立つ変成岩の岩肌を晒して、神々しく凛とした姿で浮かんでいます。そんな「神ノ島」と苅田の浜に伝わる民話「神ノ島と白蛇道」をご紹介します。



むかし、苅田の濱浦^{はまうら}つちいうところに、二作という漁師の若者がすんじよったつち。

二作は、りっぱな漁師やったけど、体が小さかったもんやから、若い衆の仲間には入れてもらえんし、嫁ももらえんで、いつも一人で浜に出かけちゃ空飛ぶ鳥や泳ぐ魚、コメだんごを作る小さなカニに、話しかけておったそう。

ある日、二作が浜辺を歩きよったら、子どもたちのおらが声が聞こえてきた。

「わあ、白蛇がおると」何人もの子どもたちが白蛇を棒で叩いたり石を投げていじめよった。

「やめんかー」と、二作が大声でおらびながら走って行くと、苦しそうに白蛇が横たわり、体からは血がにじんで砂まみれになつちよった。

宇原神社のお祭も近づくと、海が荒れる日がつづき、浜の漁師たちは神様にお供えする魚もとりに行けずに困つちよった。そこで網元は、二作や若い漁師たちに船を出してくれるように頼んだ。

おそるおそる海に漕ぎ出した二作たちやうたが、波はますます高くなり、引き返そうにも舵もきれんことなつて、とうとう船は大波に飲まれ、みな海に投げ出されてしもつたんよ。

嵐が静まり、浜に打ち上げられた二作が気がついた時は、仲間は誰もおらんやうた。あたりを見回すと海の方こうにぼんやり濱浦の山々が見えた。

「ここは神ノ島か。仲間はどこに行つたんやろ。船も無いし、まだ波も高い。村にもどるにはどうしたらいいんやろか。」

途方に暮れちよった時、二作さん、二作さんと呼ぶ声がした。ふりむくと、白蛇がかま首もたげ二作に近寄り、ついておいでという仕草をしなから海の中に入つていった。すると不思議なことに海の中に細い一本の道ができていった。

この白蛇は、もしや浜で助けた白蛇だったのではと気づいた二作は、白蛇がつくった道をたどつて、どうにか無事に村に帰りつくことができたそう。

それから、二作は「幸運をもたらす二作」と呼ばれ、浜の娘と結ばれ、子宝にも恵まれ、幸せに暮らしたつちいうお話。

苅田沖白蛇道図

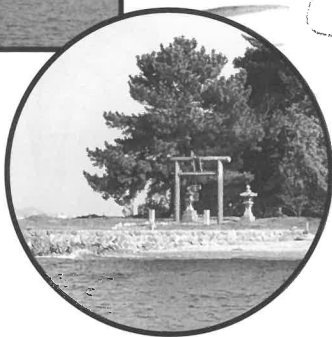


市杵島神社

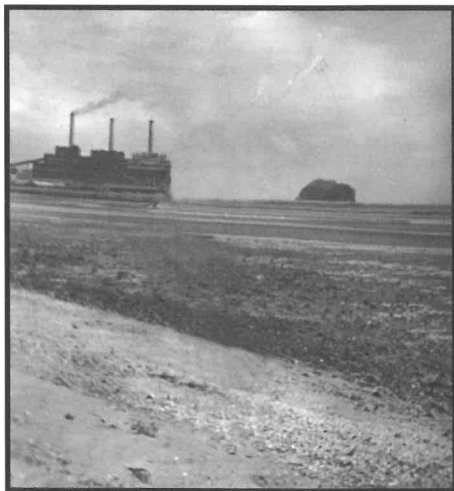
海の守り神として、地元の漁師から信仰されています。

神ノ島

洋上に浮かんだような涅槃像。苅田町と深い関わりのある豊玉姫ゆかりの神ノ島。北九州空港線からトヨタ自動車九州(株)苅田工場前の道路をまっすぐに海に向かって進んだ先で見られます。



現在、神ノ島はかつて「濱浦」と呼ばれた「苅田町浜町区」の共有財産であり、「神ノ島組合」が管理をしています。そこで、今回、組合長の濱田啓一郎さん(83)にお話を伺いました。「子ども頃は、国道の方こうは海岸と塩田でね、海の方こうには九電の3本煙突と神ノ島が見えまして。昭和30年代には神ノ島には灯台



昭和33年 濱田氏撮影
埋め立て前の濱浦から見える神ノ島(右)と九州電力苅田発電所(左)

●参考文献
『ものがたり京築』京築民話の会編 葦書房 1984
『郷土のものがたりその2』福岡県総務部県政情報管理課 1982
『豊前国苅田歴史物語』小野 剛史 花乱社 2016
『新京築風土記』山内公二 幸文堂出版 2017
『The Legend of 神ノ島』神ノ島組合
『市杵島神社(神ノ島)石造物調査記録』苅田郷土史学校